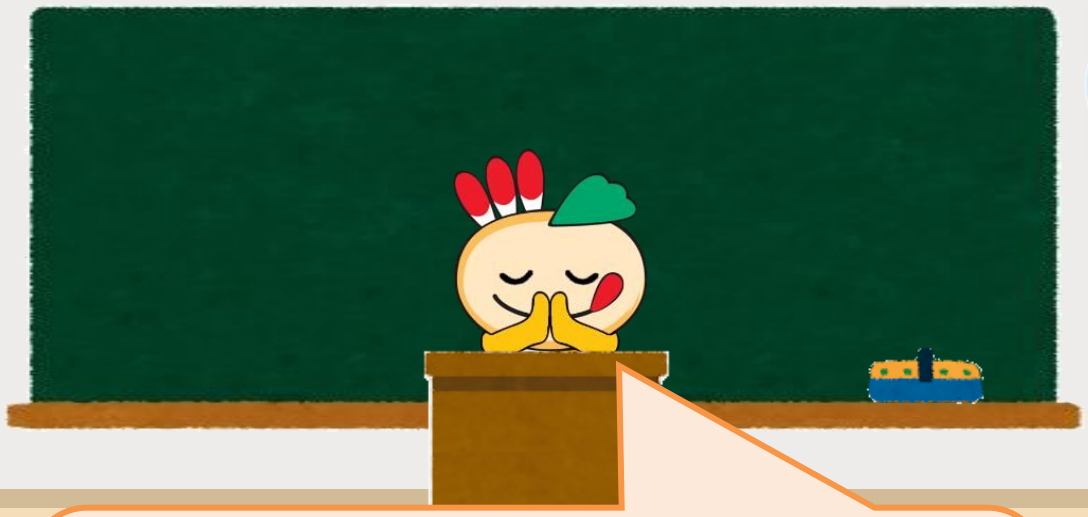
かまたんと学ぶ
鎌ケ谷市の財政



～令和７年度決算版～

鎌ケ谷市 企画財政課 財政室

はじめに



鎌ケ谷市では、予算や決算をはじめとした財政に関する情報を積極的に発信してるよ。より多くのみんなに財政状況を知ってもらうために、わかりやすい表現を心がけて「**かまたんと学ぶ鎌ケ谷市の財政**」を作ったよ。

市の仕事は、学校・福祉・ごみ処理・道路整備など、みんなの生活に関係したものばかり。ぜひ、みんなが、市の事業や財政状況をより身近に感じてくれたらうれしいたん。

今日の時間割

1時間目　財政とは
　P　2　　1．財政についての説明
　P　3　　2．１年間で扱うお金
　P　4　　3．どんなお金が入ってくるか
　P　5　　4．どれくらいのお金が納められているか
2時間目　お金の使い道
　P　6　　1．何のために使ったか
　P　7　　2．どんなことに使ったか
　P　8　　3．財政の変化
　P　9　　4．具体的なお金の使い道
3時間目　鎌ケ谷市の財政状況
　P１０　　1．鎌ケ谷市の貯金
　P１１　　2．鎌ケ谷市の借金
　P１２　　3．身近なものに例えると
　P１３　　4．他市と比べると
4時間目　お金の使い方
　P１４　　1．使い道の決め方
　P１５　　2．実際の使い道
5時間目　鎌ケ谷市のこれから
　P１６　　1．これからの予測
　P１７　　2．財政状況は大丈夫？

（注）おことわり
これから出てくる「県内３７市」の比較は、総務省が定めた全国一律ルールである普通会計決算に基づいた決算額としています。
「県内３７市」とは、鎌ケ谷市を含む千葉県内の全市です。

１時間目：財政とは「１．財政についての説明」

2

財政とは：国や地方公共団体（千葉県や鎌ケ谷市など）がお金をやりくりすること

たとえば）市民のみなさんや企業の方に納めていただいた税金、国や県から入ってくるお金、銀行からの借金、将来のために積み立てた貯金などを使って、学校、公民館、道路などの公共施設を整備したり、教育や福祉などの公共サービスを提供したりすることです。



１．財政についての説明

○財政のイメージ

市に入ってくるお金

税金、寄附金



国・県からのお金



銀行などからの借金



鎌ケ谷市



市から出ていくお金

公共サービスの提供



（例）福祉・教育・防災



（例）道路整備

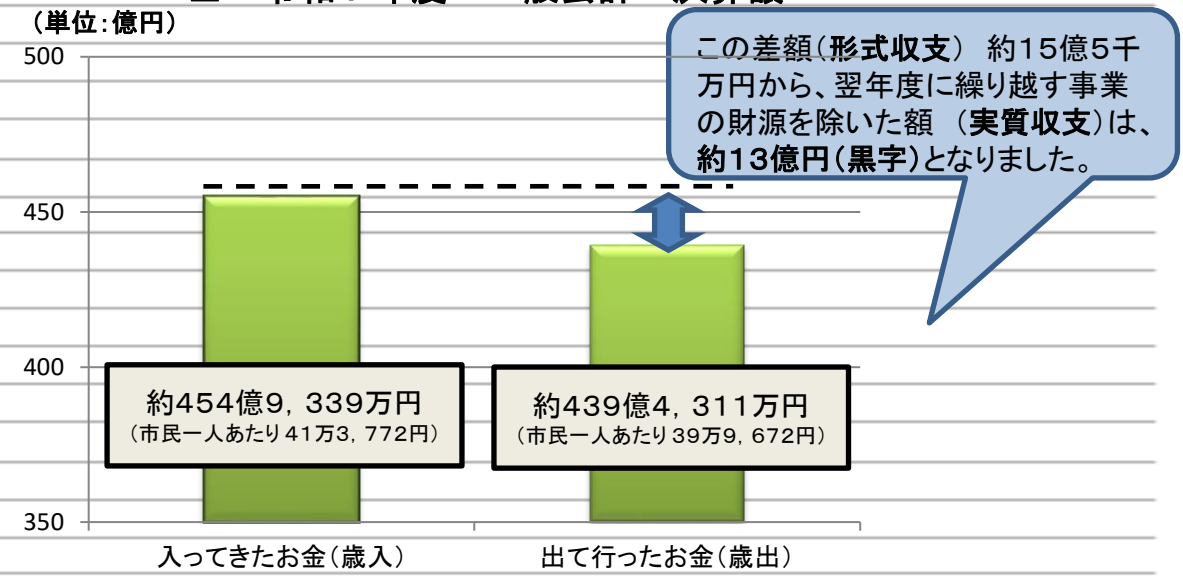


１時間目：財政とは「２．１年間で扱うお金」



２．１年間で扱うお金

■　令和７年度　一般会計　決算額



（令和８年１月１日の住民基本台帳人口の109，948人から算出）

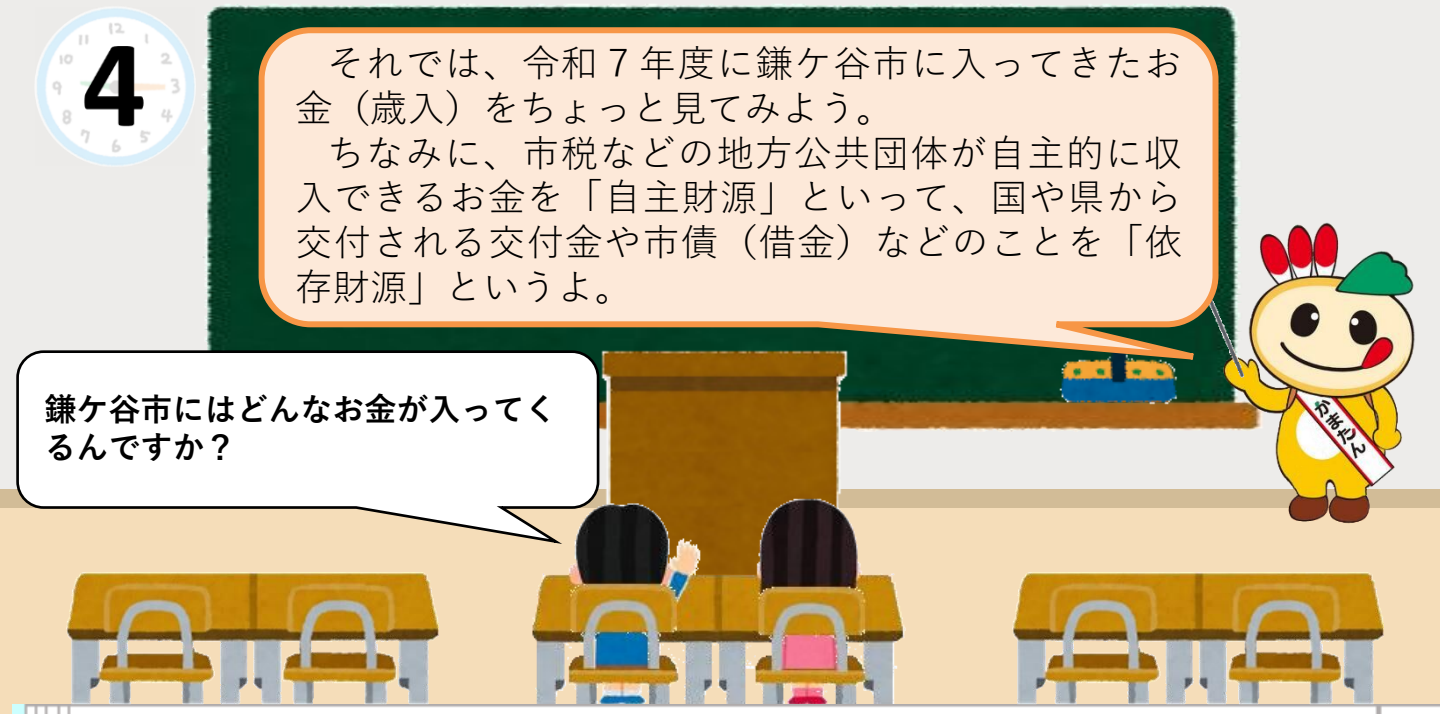
〇約４３９億円ってどのくらい？

歳出予算を１万円札で積み上げたら、どのくらいの高さになるのか…

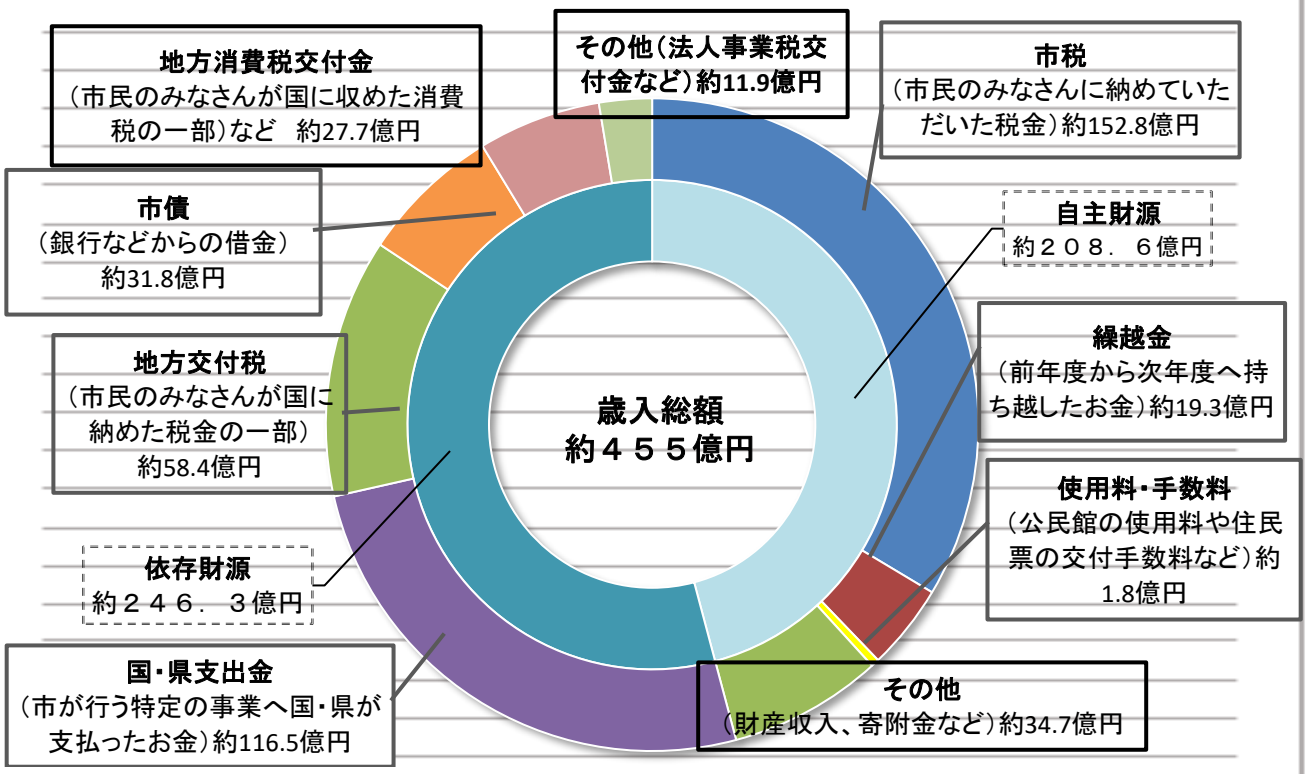
１００万円で１ｃｍだから…なんと約４３９ｍ！？

比べると…東京タワー＝３３３ｍ　　鋸山（千葉県）＝３２９メートル

１時間目：財政とは「３．どんなお金が入ってくるか」



３．どんなお金が入ってくるのか(令和７年度 一般会計 歳入決算額)



市民のみなさんから納めてもらった税金と国・県からもらうお金、銀行等からの借金で運営している。市税はとても重要な財源。市内での買い物や他市からのふるさと納税（寄附）をしてもらうことも収入UPとなる。

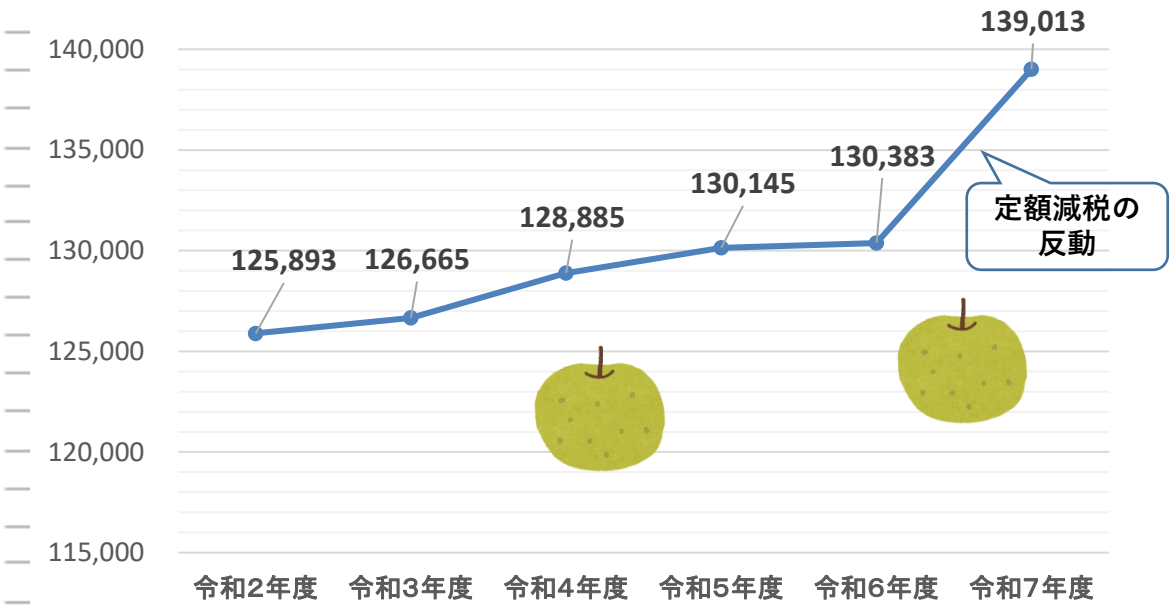
また依存財源は、外部からのお金を頼るため、自主財源の確保が財政を安定させるポイント。

１時間目：財政とは「４.どれくらいのお金が納められているか」



４．どれくらいのお金が納められているか

○市民一人あたりの市税収入の推移



（令和８年１月１日の住民基本台帳人口の109,948人から算出）

令和７年度の市民一人あたりの市税収入は、１３万９，０１３円で県内３７市中多い順で２８位。鎌ケ谷市は首都近郊の住宅都市として発展したため、企業や工場が少なく、法人市民税や固定資産税が極端に少ない財政構造。

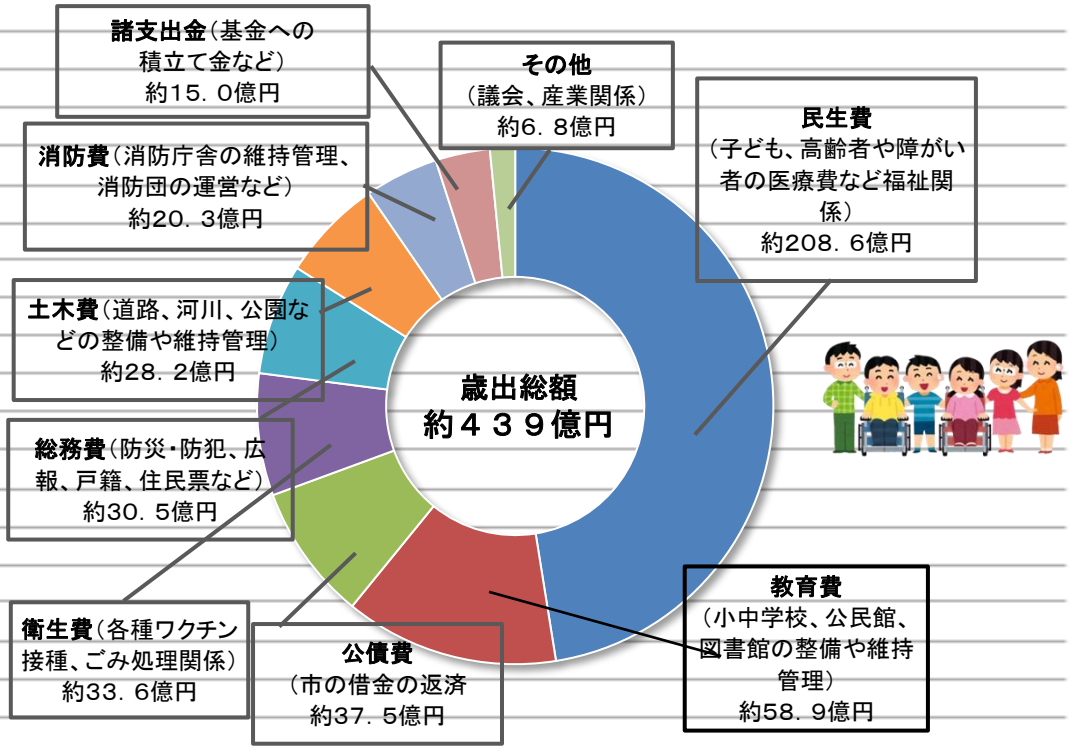
他市に比べて、市税が少ないということは、鎌ケ谷市は自由に使えるお金が少ないということ。

２時間目：お金の使い道「１.何のために使ったか」



１．何のために使ったか

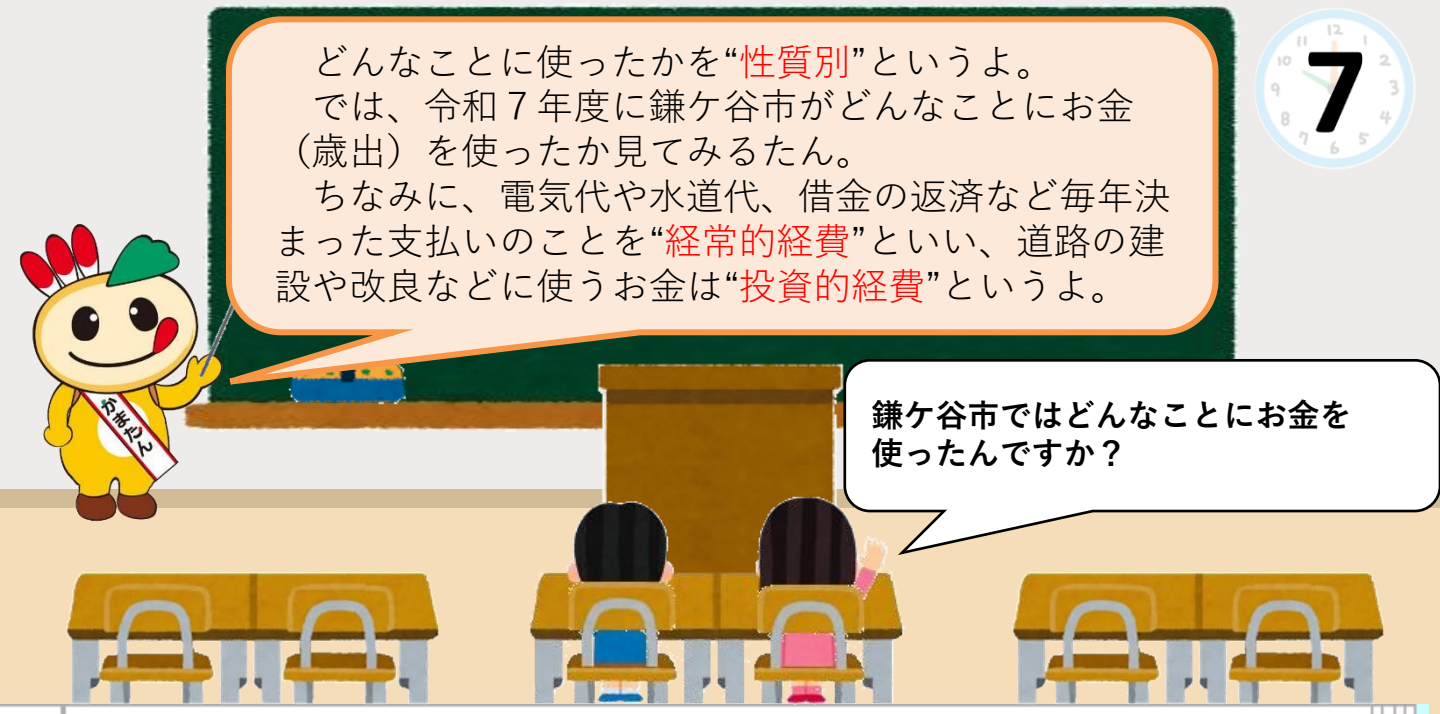
○令和７年度　目的別　歳出決算額



一番多いのは民生費で約２０８．６億円と全体の４７．５％。制度改正に伴う児童手当や物価高騰対策として実施した物価高対応子育て応援手当などが影響。

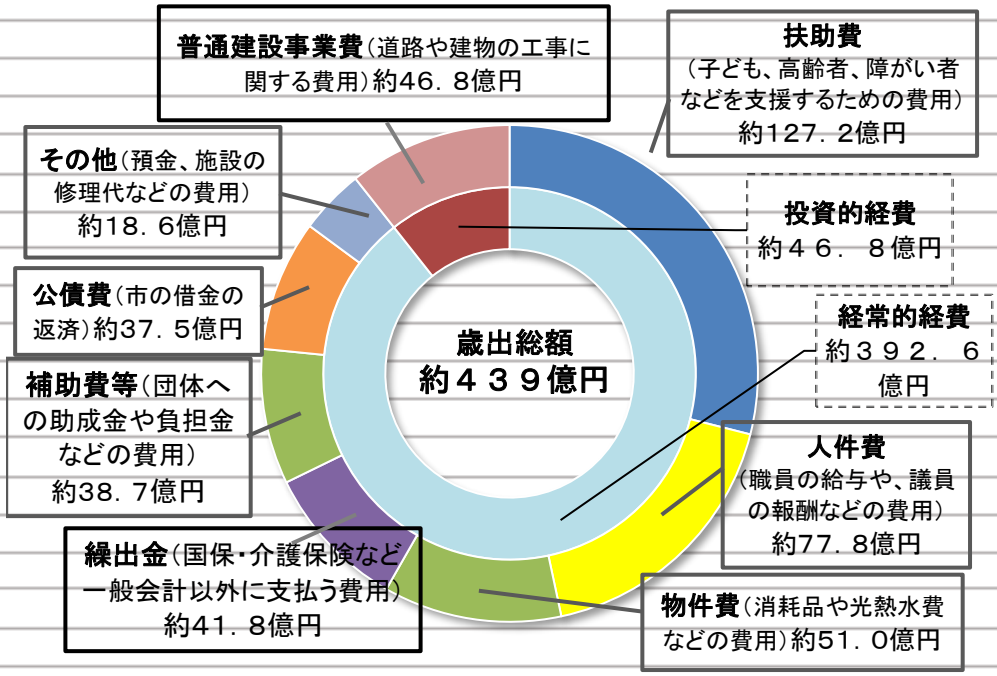
そのほか、教育費（学校の整備など）や公債費（借金の返済）、衛生費（各種ワクチン接種など）に多く使われている。

２時間目：お金の使い道「２.どんなことに使ったか」



２．どんなことに使ったか

○令和７年度　性質別　歳出決算額

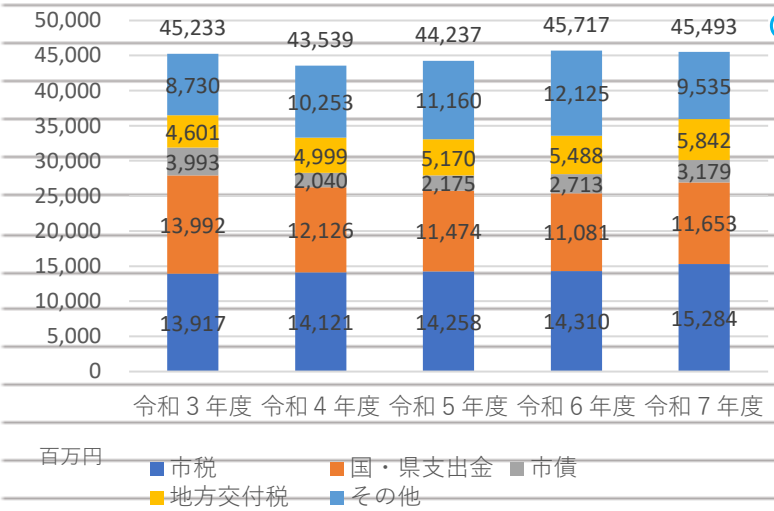


・経常的経費（一部、一時的なものもある）が全体の約８９％。
　今後は、民間給与の上昇を受けた職員の給与などの人件費、こども、高齢者、障がい者などを支援するための扶助費などが増える見込み。

２時間目：お金の使い道「３.財政の変化」



３．財政の変化



○歳入額の推移

●ポイント

賃上げの影響や市内開発もあり、市税収入は増加傾向にある。

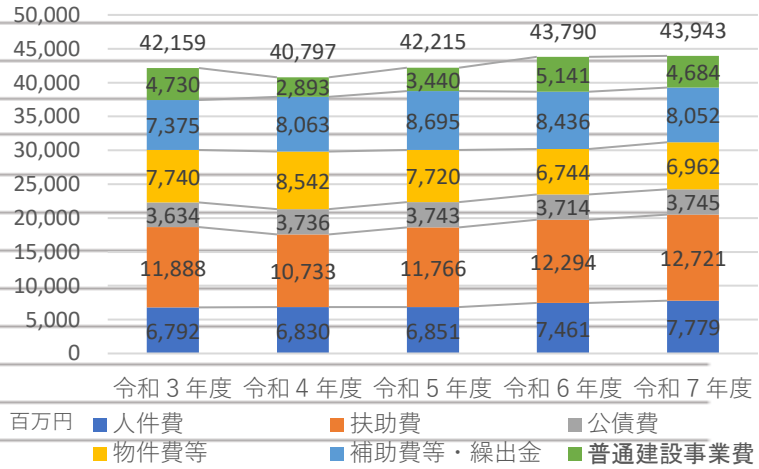
歳出側で扶助費が増加していることや、国の給付金事業などもあり、歳入全体としては、増加傾向にある。

○歳出額の推移

●ポイント

公債費の支出が３６億円～３７億円台となっており、償還のピークを迎えている。

３年度と７年度を比較すると人件費が民間給与の上昇などもあり、約１０億円と特に増加している。

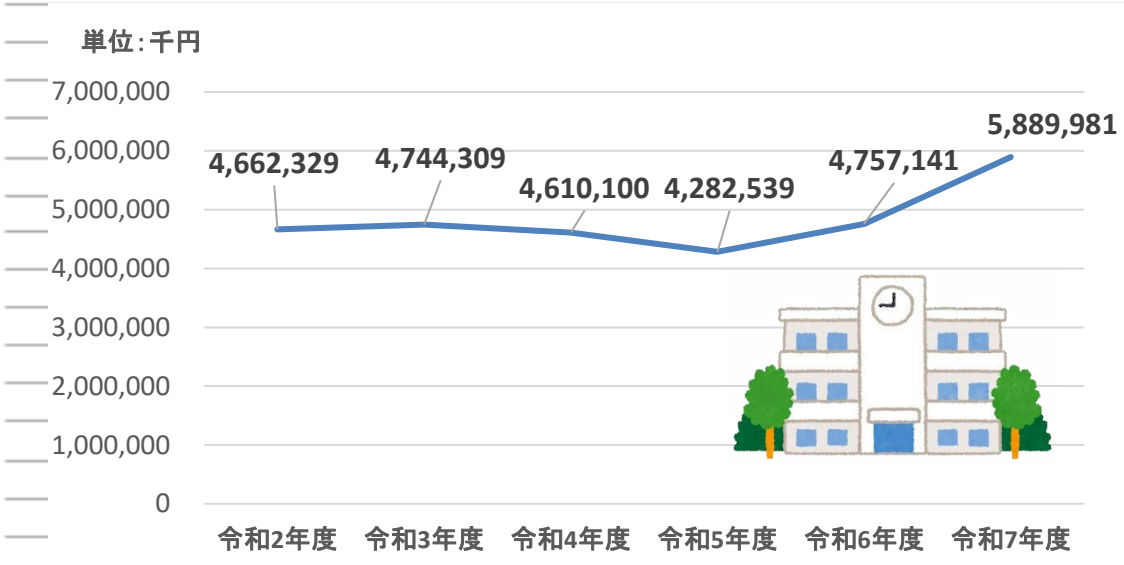


２時間目：お金の使い道　「４.具体的なお金の使い道」



４．具体的なお金の使い道

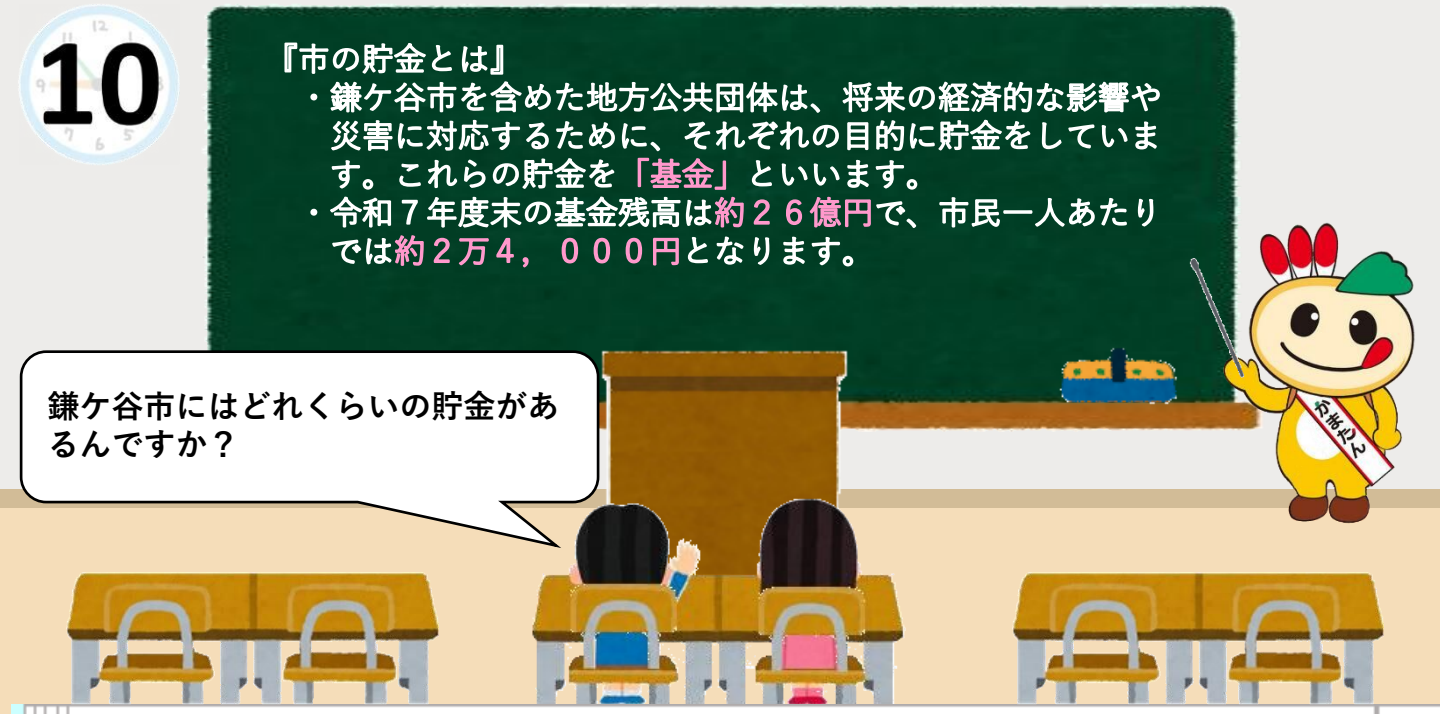
○近年の教育費（決算額）の推移



●令和７年度の実施例

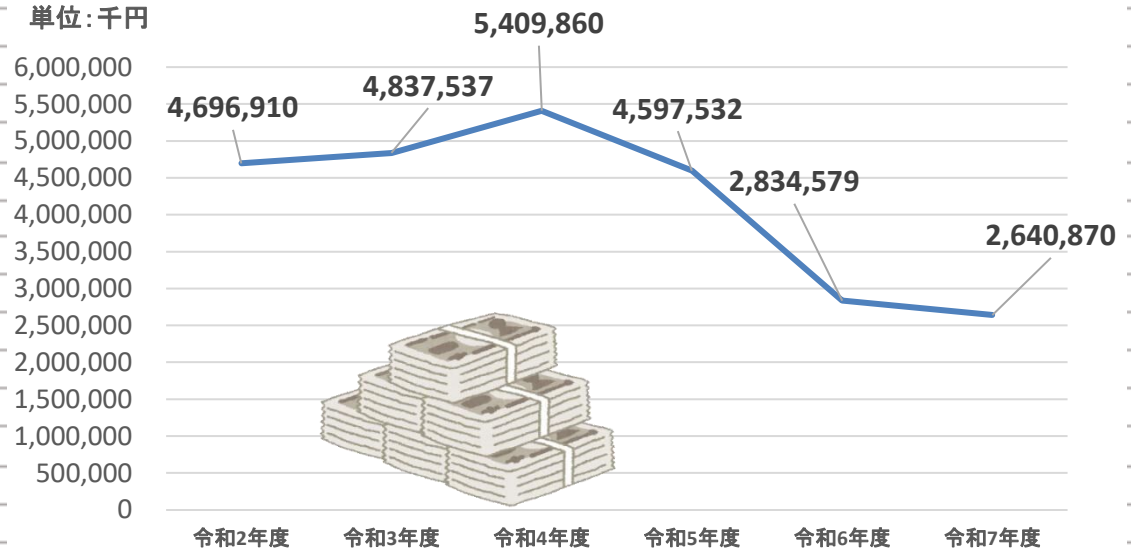
　令和７年度は災害時の避難所となる「鎌ケ谷中学校、第二中学校、第五中学校の体育館空調設備設置工事」や脱炭素化の推進として「中部小学校、西部小学校、第四中学校のLED照明改修工事」などを実施した。

３時間目：鎌ケ谷市の財政状況「１.鎌ケ谷市の貯金」



１．鎌ケ谷市の貯金

○近年の基金（貯金額）残高の推移



●現状の基金残高について

令和７年度では、小学校１年生の給食費の無償化などの子育て世代への支援、市民体育館や小中学校体育館の空調整備といった防災対策など、今、取り組むべき事業や物価高騰に伴う物件費等の対応に貯金を使ったため、令和６年度と比較して、約２億円の減少となった。今後は行財政改革等の取組により、基金残高を段階的に回復させていく予定。

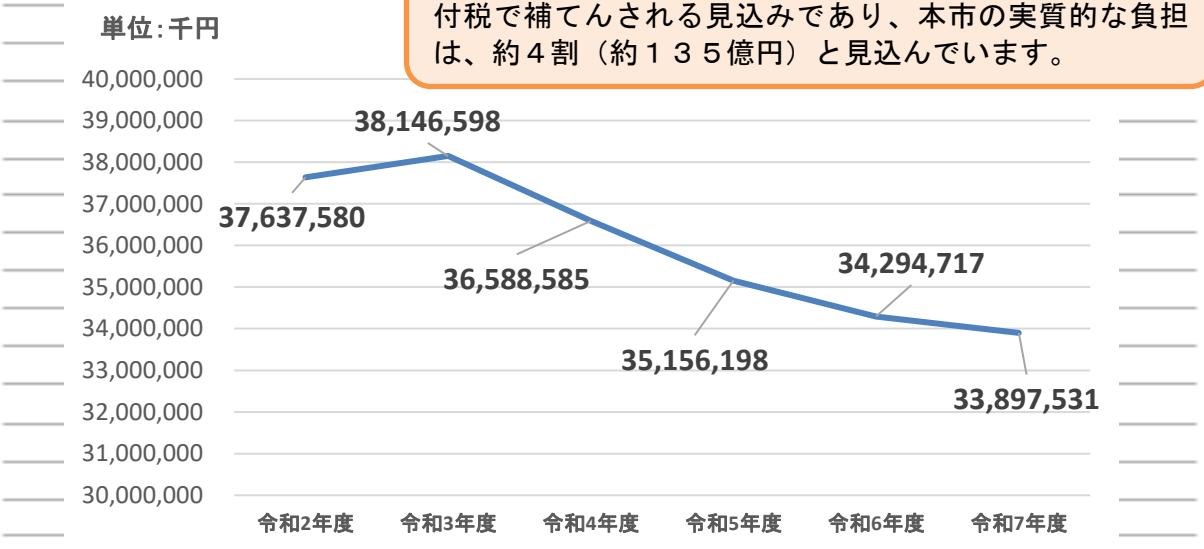
３時間目：鎌ケ谷市の財政状況「２.鎌ケ谷市の借金」



２．鎌ケ谷市の借金

○一般会計の市債（ローン）の年度末残高の推移

市債残高のうち約６割は、後年度の借金返済が地方交付税で補てんされる見込みであり、本市の実質的な負担は、約４割（約１３５億円）と見込んでいます。



・令和７年度の市債残高は３３９億円で、市民一人あたりでは約３０万８，０００円。県内３７市の中では多い順で２１番目と平均より多い残高となっている。

●貯金があるのに借金をする理由
学校などを建てると、その後は何十年と使うため、建てたときの人たちだけでこのお金を負担するのは不公平であり、分割して支払うことで将来世代にも負担してもらうことができ、他事業の財源確保や財政負担も平準化できる。

３時間目：鎌ケ谷市の財政状況「３.身近なものに例えると」



３．身近なものに例えると

○収入

家計		市の会計		金額
給料		市税	自主財源	２０２万円
駐車場収入など		使用料・手数料など		５０万円
貯金の利子、取り崩し		財産収入、基金繰入金		２３万円
親からの仕送り	使い道が決まっている	国・県支出金	依存財源	１５４万円
	自由に使える	地方交付税		７７万円
借金		市債		４２万円
その他の収入		地方譲与税など		５２万円
合　計				６００万円

○支出

家計	市の会計	金額
医療費	扶助費　※	１６８万円
光熱水費など	物件費・補助費など	１１８万円
食費	人件費	１０３万円
家の増改築	普通建設事業費	６２万円
子どもの習い事	他会計出資金	０万円
子どもへの仕送り	他会計繰出金	５５万円
借金の返済	公債費	４９万円
家の修理代など	維持補修費など	４万円
貯金	積立金	２１万円
合　計		５８０万円

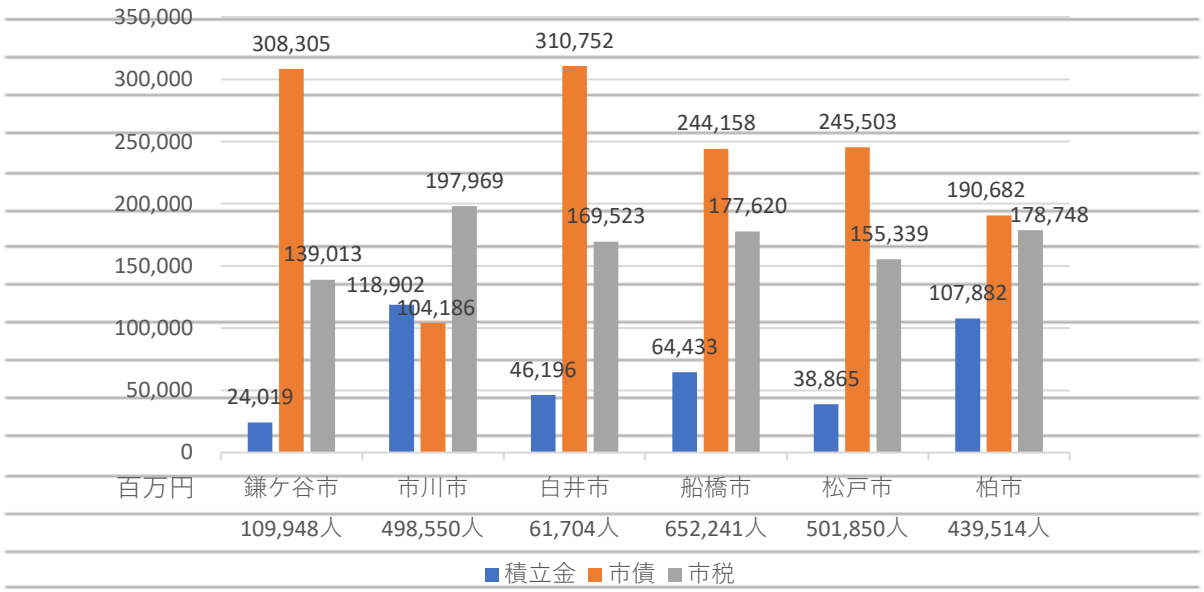
・家計でいうと医療費（扶助費）が多くかかっている。

３時間目：鎌ケ谷市の財政状況「４.他市と比べると」



４．他市と比べると

○市民一人あたりの積立金、市債、市税





他市と比べると、鎌ケ谷市は大丈夫なの？と思うかもしれないけど、今後の見通しを考え、国の基準を上回らないよう取り組んでるたん。
だけど、これより数値を良くするために魅力あるまちづくりをして、市税収入ＵＰを目指す必要があるたん。

４時間目：お金の使い方「１.使い道の決め方」

14

『予算作りの流れ』
・まず市長をはじめとした市役所職員みんなで、市民の皆さんの意見を考慮しつつ、計算や議論をして、どれだけのお金が入ってくるのかと使い道の案（予算案）を考えます。
・そしてその編成した案を市議会に提出して、市民の代表である市議会議員の方々の審査を受け、最終的には市議会で決定されます。



１．使い道の決め方

○令和９年度の予算編成スケジュール

９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
予算編成のルール（方針など）や今後の日程を決めます。	それぞれの部署が予算の要求案を決め、財政担当部署に提出します。	提出された予算案について、財政担当職員がそれぞれの部署の職員と一緒に内容の確認を行います	財政担当課長などによる予算案の策定を行います。	財政担当部長による予算案の策定を行います。	市長・副市長・教育長・各部局長などで予算案について調整し、市長が予算案を決定します。	市長が市議会に予算案を提出し、議会での審議が始まります。	市議会での審議の結果、承認がなされれば、最終的に予算として決定します。

・イメージは大きな買い物（車など）を買うときの家族会議のようなもの
・不足の事態によって予算が足りない時は「補正予算」を同じような流れで行う。基本的には６月、９月、１２月、３月にある。

４時間目：お金の使い方「２.実際の使い道」



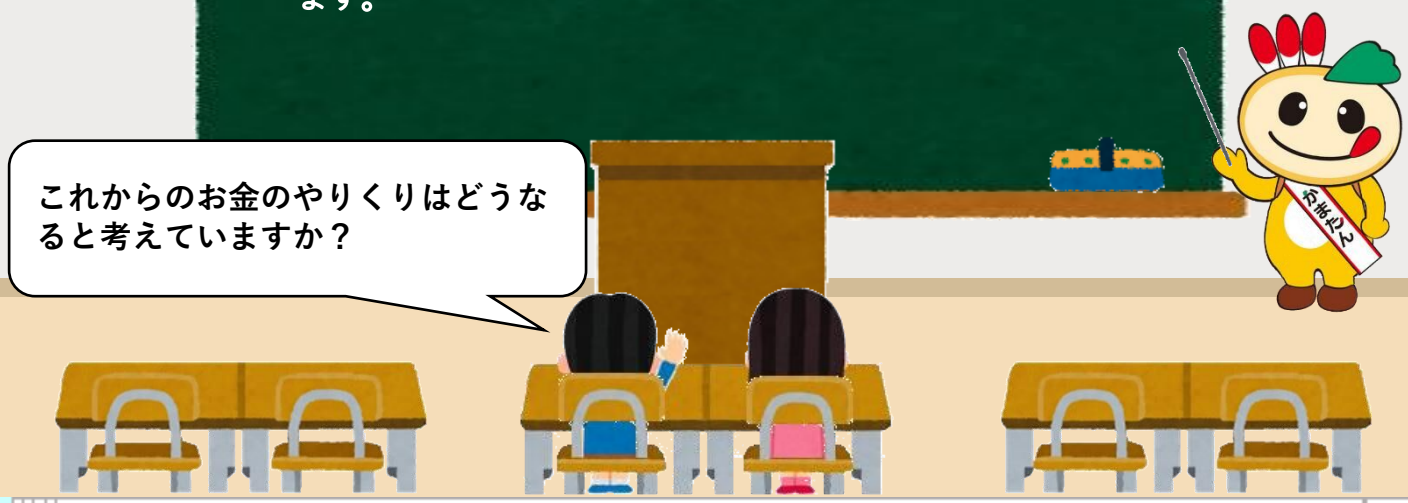
２．実際の使い道

スポーツ施設維持補修事業　８億４４８万円 大規模災害時の避難所や夏場の熱中症対策として、市民体育館へ空調やＬＥＤ照明などの改修工事を実施しました。	
義務教育施設維持補修事業　８億１５６万円 各小中学校の学習環境の向上を図るため、体育館空調設備設置やＬＥＤ照明の導入など、必要な改修工事を実施しました	
【物価高騰対策】 **定額減税補足給付金の支給　３億６，２２１万円** 所得税・個人住民税の定額減税において、所得の確定等による差額分の給付金を支給しました。 **低所得者支援給付金の支給（子育て世帯加算含む）　２億９，５４３万円** 物価高騰の影響を強く受ける子育て世帯に対して、給付金を支給しました。	
子ども・高校生等医療費助成　４億３，００６万円 子どもの保健対策の充実及び保護者の負担軽減を図るため、医療費の全部または一部を助成しました。	
（仮称）緑道整備事業　１億６，９３５万円 東京１０号線延伸新線跡地への（仮称）緑道の整備として、北初富ほほえみ公園の整備工事を実施しました。	

５時間目：鎌ケ谷市のこれから「１.これからの予測」

16

『鎌ケ谷市の予算見通し』
・鎌ケ谷市では「当初予算を作ったあと」と「決算が固まったあと」の年２回、今後６年間の財政推計をしています。
これを「中期財政見通し」と呼んでいて、市HPに掲載しています。



１．これからの予測

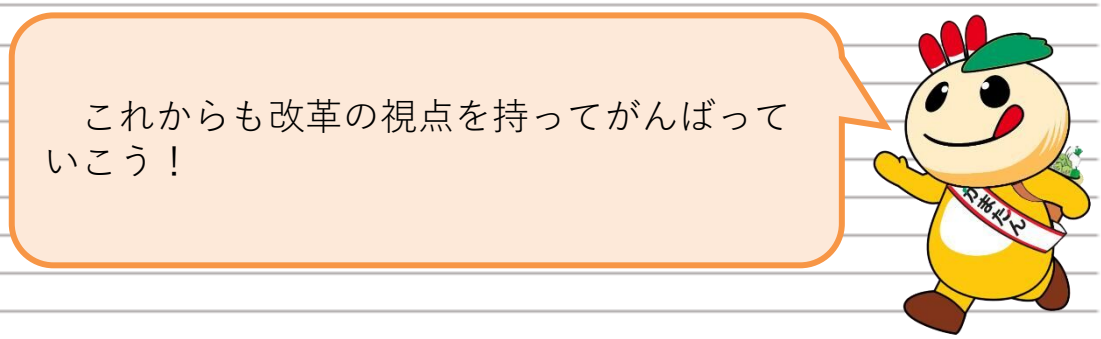
○中期財政見通し（令和７年度決算後）

単位：億円

区分	R9推計	R10推計	R11推計	R12推計	R13推計	R14推計
歳入	431.6	436.8	446.1	454.8	458.3	459.1
歳出	435.9	441.8	448.9	457.9	463.7	462.5
収支差	▲4.3	▲5.0	▲2.8	▲3.1	▲5.4	▲3.4

・令和９年度以降は、財源不足が生じる見込みで、財源の確保が必要な状況にある。
・今後、住宅の建設や企業誘致など、市税収入の増加が見込まれるものの、歳入確保と歳出削減の取り組みをしっかり行っていく必要がある。

●今後の対応
　この対応として、企業誘致の推進や、各年度の決算状況などにより、必要に応じて計画の見直しを行うなど、毎年の予算編成で対応していく。



５時間目：鎌ケ谷市のこれから「２.財政状況は大丈夫？」



２．鎌ケ谷市の財政状況は大丈夫？

○財政に関する様々な基準

・国は地方公共団体の財政状況を統一的な指標（※２）で明らかにするため、法律により注意しなければならない基準（※３）を設けている。

・鎌ケ谷市はそれらの基準をすべてクリアしている。
ただし、少子高齢化の進展により福祉に係るお金（扶助費や繰出金）が増加しているほか、借金の返済など、義務的なお金も増加している（※４）。

・今後、企業誘致の推進や行財政改革を進め、毎年度の予算編成の中で一層の歳入確保と歳出削
減を行う。さらに、国の地方に対する財政政策に注視して、市民サービスの向上に配慮しつつ、堅実で持続可能な財政運営をしていく。

※１　国が定める全国統一の計算方法で「実質収支」のことをいいます。
実質収支：１時間目で出た歳入と歳出の差額（形式収支）から、令和７年度に完了できず、令和８年度へ繰り越した工事などのための繰越金を差し引いた額のこと

※２　国は市町村が借金をしすぎないように実質公債費率（標準財政規模に対する借金の返済額の大きさを示すもの）と将来負担比率（標準財政規模に対する債務残高の大きさを示すもの）を設けている。

※３　早期健全化基準（イエローカードのようなもの）のことをいい、この基準を上回らないことが財政状況が健全であるといえる。
例）令和７年度決算の実質公債費率：6.7%（早期健全化基準：25%）
将来負担比率：48.7%（早期健全化基準：350%）

※４　経常収支比率（市税など決まった収入が、必ず支払わなければいけない経費にどれくらい使われているか示すもの）は、令和７年度決算で、国基準では97.9%。この比率が低いほど財政状況に余裕があり、自由に使えるお金が多いことを表します。逆に100%に近いと余裕がなくなります。